

# 川内港久見崎みらいゾーン産業立地ビジョンの概要

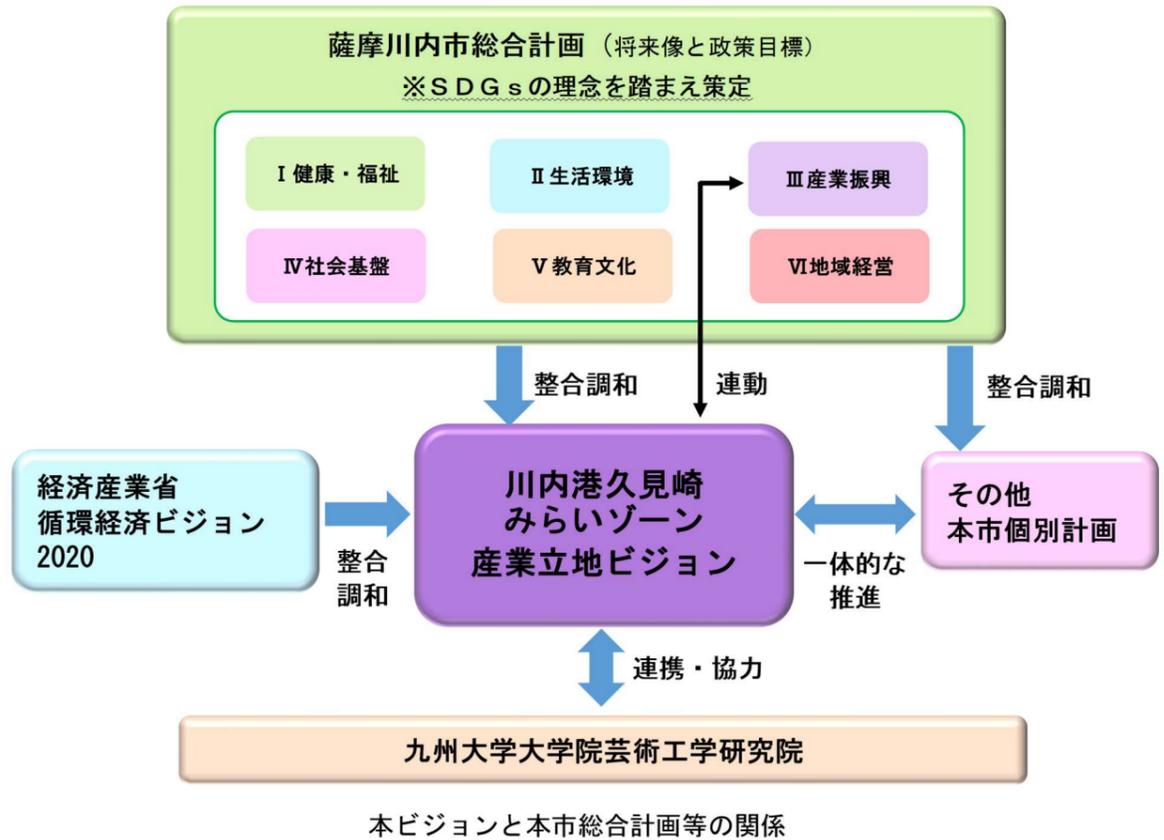
## 1. これまでの経緯・背景

薩摩川内市第2次総合計画や都市計画マスタープラン等を基に、平成 28 年度に工業団地の適地調査を実施し久見崎用地を選定。併せて、滄浪地区コミュニティ協議会(久見崎町)からの当該用地を活用した地域振興要望等もあり、川内港久見崎みらいゾーン(以下、みらいゾーン)開発事業を推進してきた。

【川内港久見崎みらいゾーン開発事業概要】	
(1) 事業面積	約 32.4ha(うち分譲面積 15.9ha)
(2) 開発計画内訳	①工業ゾーン 11.5ha、②宅地ゾーン 0.5ha、③多目的ゾーン 3.9ha
(3) 事業期間	平成 29 年度～令和8年度
(4) 分譲開始	令和 4 年度目標

## 2. ビジョン策定の目的

本ビジョンは、みらいゾーンにおける“誘致政策・誘致活動”、“誘致する用地”、“地域”の3つの要素を包括した産業立地戦略を示すとともにその戦略の方向性を明らかにする。

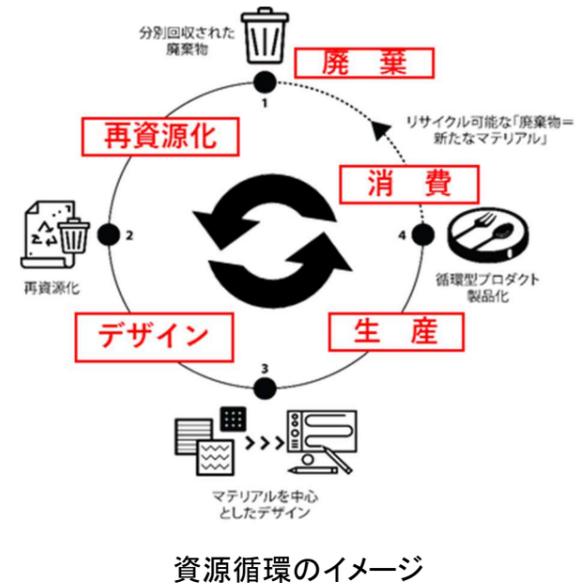


## 3. 産業立地の目指すべき方向性

- 【産業立地の基本方針】
- (1) SDGs、循環経済モデル、先端素材、次世代エネルギーを取り入れた 21 世紀型産業の育成
  - (2) 川内港との連携による川内港背後地機能の強化
  - (3) 南九州西回り自動車道の全線開通を見据えた物流拠点の整備
  - (4) 地元地区の活性化
- 地元地区の活性化に繋げるため考慮する主な事項
- ① 地元住民の生活利便性向上
  - ② 若い世代の移定住者の増加
  - ③ 住民参加イベント等による久見崎エリアの活性化
  - ④ 周辺環境に配慮した開発(環境基準の順守)
  - ⑤ 地元住民等からの意見・要望を踏まえた取組

## 4. 『循環経済』という新しい概念

- 循環経済(サーキュラーエコノミー)は、「大量生産・大量消費・大量廃棄」の線形経済から、資源循環や適量生産といった新しい手法を取り入れ、長期的に成長していく経済モデルである。
- 現在、国においても「循環経済ビジョン 2020」を策定し、環境問題の深刻化を受けて、資源投入量や消費量を抑えた循環経済への転換が唱えられている。



## 5. 薩摩川内市が目指す将来像

- (1) 薩摩川内市は、循環経済を中心とした新しい都市像・「循環経済産業都市」を今後のまちづくりの目指す将来像として推進する。
- (2) みらいゾーンの開発を中心に、従来の企業誘致ではなく、次世代の産業を担っていくスタートアップ(新興企業)や起業家を発掘する提案型の新しい産業集積に取り組む。
- (3) みらいゾーンでは、環境や社会課題に対し、アイデア・技術を試験・実証し、そこで得たノウハウや知見を社会実装化するだけでなく、域内外の人や知財、技術、情報等が交わり、共創することで、みらいゾーンの価値を高めていく仕組み・体制の構築を目指す。

みらいゾーンを中心に薩摩川内市が目指す将来像  
環境や社会課題の解決を見据えた持続的な発展を目指す  
「循環経済産業都市・薩摩川内市」

## 6. 産業立地戦略の方向性

みらいゾーンでは、社会や企業のニーズと技術・アイデアを結ぶライブラリーやラボ<sup>i</sup>等の機能を付加し、新たな製品の創出や投資の循環を促す。

また、九州大学大学院芸術工学研究院との共同による研究・開発を実施し、その拠点となる施設の誘致を目指す。

### (1) 中核となる機能

#### ① 循環素材ライブラリー機能

産業廃棄物の新たな用途を創造・デザインし、資金調達(例:市外からの投資獲得)のためのアイデアソン<sup>ii</sup>等のイベントを常態的・継続的に実施。

#### ② 循環素材・バイオ素材を活用した先端研究機能

九州大学大学院芸術工学研究院を中心に市民生活に直接関連する衣食住や廃棄物量の多い産業基盤分野について、生活とデザインを基軸とした研究・開発を実施。

#### ③ 市民発イノベーションラボ

市民・地域企業・新興企業・国内外の研究機関等の各主体が有機的に連携しながら、各主体のニーズやシーズ(技術)、アイデア等を出し合い、ビジネス化を模索。

### (2) 産学官連携の体制

本ビジョンは、薩摩川内市(官)と九州大学大学院芸術工学研究院(学)が共同で企画運営し、産業廃棄物処理、ファッション、食、建築、デザイン教育などの分野で、最先端の循環経済・社会活動を行う実践者群(産)の参画を促す構想である。



3つの要素のイメージ

## 7. ロードマップ

年度	内容
令和2年 (2020年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学大学院芸術工学研究院と共同プロジェクト体制構築</li> <li>薩摩川内みらい調査、循環社会ワークショップ、アイデアソン等の実施</li> </ul>
令和3年 (2021年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラボの運営開始とベンチャー協働推進</li> <li>仮施設にて研究ラボ及び市民発イノベーションラボ運営開始</li> <li>スタートアップ企業誘致イベント</li> </ul>
令和4年 (2022年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジデンスプログラムによる実績の創出</li> <li>仮施設にてスタートアップ企業研究開始</li> <li>国際連携のレジデンスプログラム参加者による活動報告イベント</li> </ul>
令和5年～ (2023年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチャー誘致と社会実装</li> <li>みらいゾーンへの入居開始</li> <li>企業との連携を前提とした実装研究</li> </ul>

<sup>i</sup> ラボ: 研究や製作に加え、事業化コーディネート、企業や投資家とのマッチング等の複合的な役割・機能を有するものを指す。

## 8. 位置図・事業計画区域図



川内港久見崎みらいゾーン 位置図



川内港久見崎みらいゾーン開発事業 事業計画区域図

<sup>ii</sup> アイデアソン: 同じテーマについて皆で集中的にアイデアを出し合うことにより、新たな発想を創出しようとする取り組み。